

共存学3

復興・地域の創生 リスク世界のゆくえ

敵対を超えて、
相互理解と多様性を
尊重するために



國學院大學研究開発推進センター【編】

國學院大學経済学部教授、共存学プロジェクトリーダー **古沢広祐**【責任編集】

A5判上製 256頁 ●定価 2,700円 (税込)
ISBN 978-4-335-16078-3

2月25日発売

二つの大戦、さらに東西冷戦をくぐり抜けて、平和と繁栄を謳歌する時代になるかにみえた世界に濃い霧が漂い始め、あらためて「共存」が問われている。未知なるリスク世界の時代に差しかかり、どう共存するか？ その道筋を探る。

共存学プロジェクト 3つの領域と視点

1 ローカルな視点

地域コミュニティの
持続可能性。
農山漁村の共同性と暮らし。

2 リージョナルな視点

伝統文化と歴史を見つめる。
「共存」の智慧、可能性、
限界を見極める。

3 グローバルな視点

多文化の共生・共存とは。
地球規模での環境変動。
安定を模索する世界のゆくえ。

共存学がめざすもの一時代背景と本書の構成一 ◎古沢広祐
第1部 震災・復興、地域文化の創生

自然と歴史と文化をふまえた震災復興
—飛弾古川における生態経済学的農村経営政策と巨大防潮堤批判— ◎廣瀬俊介
共存社会における警察活動の分析
—東日本大震災における救護と安全確保の活動— ◎横山 實
柳田國男の見た津波供養絵
—鶴住居(うのすまい)における死者と生者— ◎茂木 栄
自然災害と共存する祭礼
—東京都三宅島の初午祭を事例として— ◎筒井 裕
渋谷・道玄坂の祭礼からみえる「共存」への課題 ◎秋野淳一

第2部 文化・民族・宗教と共存を求める世界

生きとし生ける米
—現在と過去の共存による再生の未来のために— ◎濱田 陽
気候危機の時代の哲学へ
—地球への土着性の覚醒と宗教としての神道— ◎木村武史
神道における「共存」の可能性 ◎松本久史
冥王星と宇宙葬
—死者と生者の共存、未知への遠征法— ◎菅 浩二

第3部 ゆれるグローバル世界—リスク社会のゆくえ—

どう共存するか、グローバル・リスク社会
—ポスト3・11と核・原発をめぐって— ◎古沢広祐
グローバル化時代の「共存」と越境的ガバナンス
—対立・共存・共生— ◎磯村早苗
共存の政治的条件—権力分有論と多文化主義— ◎荊田真司
共存社会の道すじ—持続可能な社会への胎動— ◎古沢広祐

好評既刊

國學院大學研究開発推進センター【編】
古沢広祐【責任編集】

共存学1

：文化・社会の多様性

A5判上製 288頁 ●定価 2,700円 (税込)
2012年3月刊 ISBN 978-4-335-16068-4



共存への旅立ち—本書のねらいと背景— ◎古沢広祐
第1部 もり・さと・うみ ◎島山重篤
【講演】森・里・海の絆を結ぶ ◎洪澤寿一
森・川・海の聞き書き甲子園 ◎茂木 栄
山・社(もり)・海をつなぐ神の道
第2部 地域・生活・環境 ◎西俣先子
共存社会と「関係性の豊かさ」
—3.11大震災におけるみやぎ生協の取組み—
都市生活における共存と神社の関わり ◎黒崎浩行
—東京「大塚まちの灯り」の試み— ◎冬月 律
神社からみる共存空間—消えていく集落にみる足尾町の暮らし— ◎重村光輝
地域の特徴を活かした価値の創出—上勝町の彩(いろどり)事業—
第3部 近世から現代へ ◎松本久史
近世国学思想から見た共存の諸相 ◎宮本蒼士
「日派」「新派」共存の背景—明治期和歌の伝統継承と革新運動— ◎菅 浩二
共存の困難さ—帝国と植民地、海外神社の経験が紡ぐもの— ◎李 春子
東アジアの神の社の信仰と持続保全
第4部 アジアから世界へ ◎河原 亘
アジアに広がる華人企業と地域共存の課題 ◎高橋克秀
—インドネシアの経験から—
グローバル経済における競争と共存—日本と韓国のFTA政策—
文化多様性と共存の行方—欧米の動向をふまえて— ◎ヘイヴンズ・ノルマン
多様性が織りなすグローバルとローカルの世界動向
—共存社会の展望— ◎古沢広祐

共存学2

：災害後の人と文化、ゆらぐ世界

A5判上製 264頁 ●定価 2,700円 (税込)
2014年2月刊 ISBN 978-4-335-16074-5



いまなぜ共存なのか？—災害後の人と文化、ゆらぐ世界— ◎古沢広祐
第1部 震災復興と文化・自然・コミュニティ ◎小島美子
【講演】震災復興に伝統文化の力をどう活かすか？
—郷土芸能と人びとのくらし—
【講演】逆境に立ち向かう ◎佐々木健
—震災からの復興に自然と歴史と文化を— ◎久保田裕道
被災地における無形伝承の復興と情報ネットワーク
第2部 復興支援と共存の関係性 ◎黒崎浩行
宗教を越えた災害支援のネットワーク
復興支援における共存と祭礼行事のかかわり
—「山田のご縁プロジェクト」の取組みから— ◎板井正斉
自然災害との共存—自然災害伝承と神社由緒との関係性— ◎藤本頼生
第3部 地域の災害と開発のゆくえ ◎筒井 裕
自然災害と地域振興—三宅島観光の現況と課題—
静岡県・旧伊東町における源泉開発の展開と旅館立地の変化
—温泉地の形成過程にみる共存の模範— ◎赤澤加奈子
日本の近代化と公害・原発災害
—田中正造の歩みと公害の歴史から考える東電福島原発震災— ◎菅井益郎
第4部 ゆらぐ共存の諸相と世界
日鮮同祖論と神社
—エスニシティ、ネイション形成と共存を考えるために— ◎菅 浩二
共存のインターフェイス—共有宗教文化— ◎濱田 陽
「共存」について—政治哲学的考察— ◎荊田真司
現代世界・文明の在り方をどう展望するか？
—ポスト地球サミット、シナリオ・パラダイム分析の視点から— ◎古沢広祐

特別価格申込書は裏面

弘文堂

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7
TEL 03-3294-4801 FAX 03-3294-7084
http://www.koubundou.co.jp/